

以森伝心

No.

41

理事長 柏原康夫 筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

「ホンモノ」を
残し伝えるために

木材の無限の可能性に挑戦

■京都の森の仲間たち

特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都

■企業参加の森林づくり2018年春

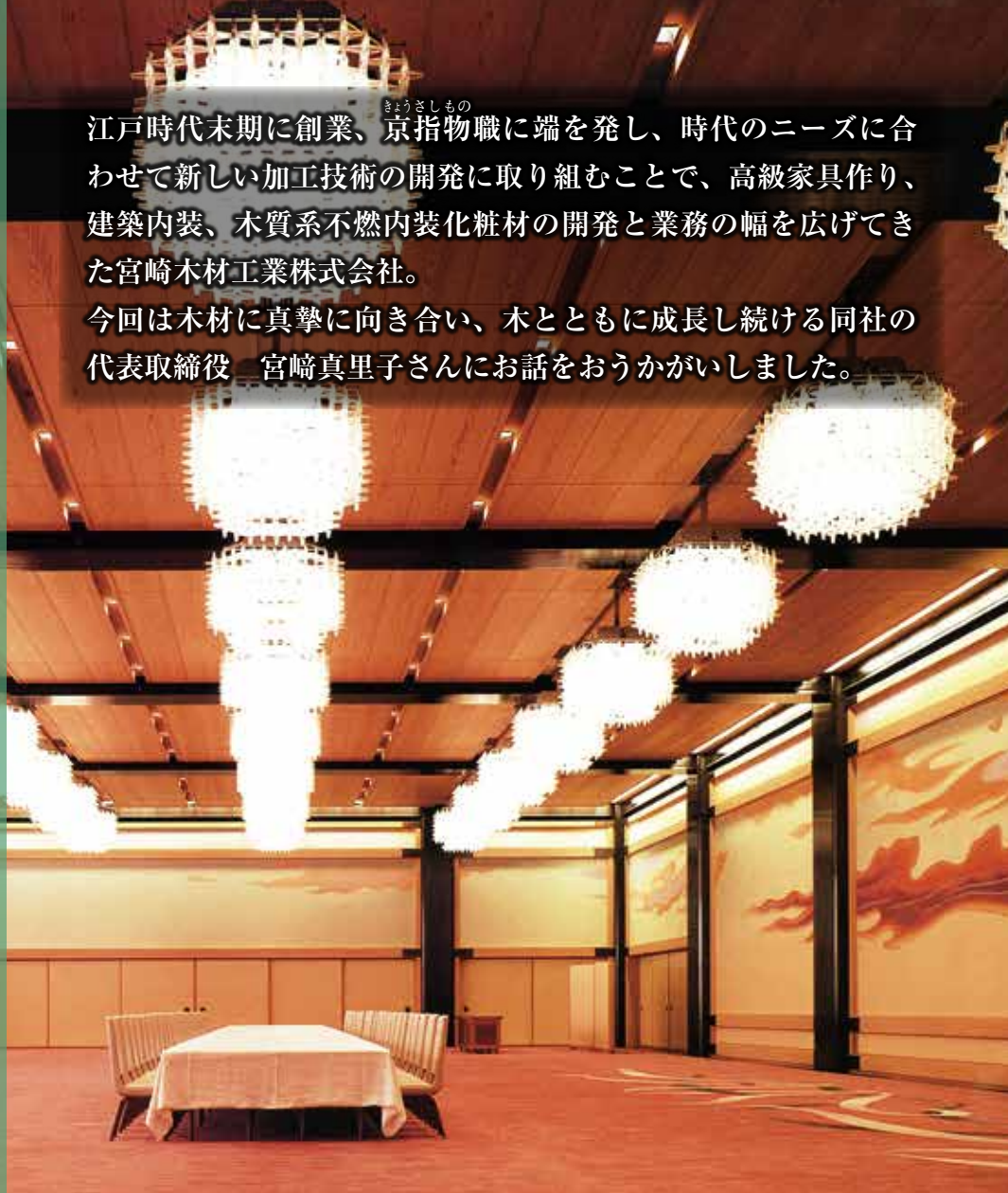
■豊かな森を次世代へ

森の出前授業

「ホンモノ」を残し伝えるために 木材の無限の可能性に挑戦

江戸時代末期に創業、京指物職に端を発し、時代のニーズに合わせて新しい加工技術の開発に取り組むことで、高級家具作り、建築内装、木質系不燃内装化粧材の開発と業務の幅を広げてきた宮崎木材工業株式会社。

今回は木材に真摯に向き合い、木とともに成長し続ける同社の代表取締役 宮崎真里子さんにお話をおうかがいしました。



「木に関することで、できないと言うな」

指物とは、木と木を組み合わせ、金釘や金物を使わずに作られた家具や調度品などの総称で、多数の技法を駆使し、さまざまな製品を作ることができるといわれています。特に京都で作られている指物を京指物といい、線が細く繊細で上品なデザインが特徴です。

「初代は御所出入りの指物師のもとで長年修行を積み、独立しました。最初は家具のみの販売でしたが、嫁入り道具の販売をきっかけに、当時では珍しい部屋をまるごとコーディネートする販売手法を取り入れました。時代が変わり、ニーズが洋家具に移ってもその手法は受け入れられ、照明、敷物、絵画や調度品に至るまで、部屋全体の意匠を提案しました。その結果、大阪商船最大の豪華客船「あるぜんちな丸」（昭和14年竣工）の内装工事を受注することになり、それ以降、本格的に建築物の内装を生業にするようになりました」

船の内装は陸にある建築物の内装より難しいといわれています。海を航行する船は進む航路によって気温差が大きく無垢材だと割れたり反ったりする可能性が非常に高くなるからです。また、安全面では揺れても調度類が動かないことが求められ、防火面では木材で



今回話をうかがった宮崎真里子社長

ありながら燃えにくい素材が必要になります。それらの課題を技術や素材開発することで全てクリアしたことが自信につながり、その後の大きな仕事へと繋がっていったと宮崎社長は語ります。

「現在、うちの仕事はすべて受注生産です。お客様のご要望をお聞きし、どんなご要望でも培ってきた知恵と技術で解決していくことを信条にしているからです」

例えば、皇居の新宮殿・豊明殿の内装や家具・調度

品、京都迎賓館の漆塗の和家具、京都コンサートホールの内装など時代を象徴するような仕事を手掛けています。また、茶室や能舞台の移築など木に関わることであれば内装とは異なる仕事も手がけ、さらには研究室を立ち上げて、不燃・難燃の素材開発にもチャレンジされてきました。

「昔の建設省、現在の国土交通省から燃えにくい素材で内装をするよう法律で定められた際、我々の求めるものが見当たらず、素材開発に着手しました。木の最大のデメリットは燃えやすいということです。だからといって、我が社が木材を使わず仕事をすることはあり得ません。世の中にないならば作るしかない」と研究を重ね、不燃木材のミヤウッドや不燃内装化粧材のミヤライトなど生み出しました」

先代は「どんな無理難題であっても、木に関することで、できないと言うな」と社員に言っていたといいます。その言葉どおり時代に合わせて必要なものを生み出すポテンシャルの高さが、木材のスペシャリストたる所以だといえるでしょう。

繊細な作業の積み重ねで 生まれる製品

実際に、工場を見せてもらうことができました。工場で働いている従業員は50名ほど。みんな、生き生きと作業に取り組んでいる姿が印象的でした。

工場内には多くの木材が保管されていました。丸太だった時の形が分かるざっくりと切られた木や角材、突板と呼ばれる0.2mm～0.6mmに薄くスライスされたものまで所狭しと取り揃えられています。聞くと日本全国、果ては海外まで、良木が出たと聞くと足を運



上・右上／工場内に保管されている木材の数々
右下／丸太だったときの年輪が見える突板



んで購入するとのこと。

「日本であれば吉野や木曽、旭川……、もちろん京都の木材も利用しています。我々の仕事は、そもそも良い木がないと良い仕事できません。しかし、良木はそう簡単に手に入らなくなっています。一時、海外の木材がもてはやされましたが、ワシントン条約などによって現在は入手するのに多く規制を受けています。かといって和材も生産者の高齢化などの問題を抱え、年々太く長い木材が減っているのが現状です」

そんななか、工場にある世界各地150種類以上の木材は社の宝だといいます。その木材を適材適所に割り当て、丁寧に製品にしていきます。例えば、不燃木材のミヤウッドは角材にした針葉樹一つひとつに番号を振り、重さを計量、その後、タンクの中に木材を入れ不燃溶液を注入し、真空状態にして不燃液を木材に含浸させ、取り出した後、さらに1本ずつ計量し薬液の含浸具合が規定を超えているか確かめます。突板づく



不燃薬剤を染み込ませ、不燃木材ミヤウッドを作る



左／専属の職人による丁寧な加工
右／塗装を行う部屋は、足元から空気を吸い込み、木材への埃の付着防ぐとともに薬品の匂いから従業員を守っている。

りも然り。薄くスライスされた木材の木目を人の手で綺麗に違和感なく揃え、シートに貼り付け、不燃素材にしていました。それらの木材を今度は社内の技術者が作る物にあわせ、着色し、削り、曲げ、家具に仕立てたり、また内装用の部品なら現場で取り付けやすいよう加工したりしていきます。このように、木取りから化粧、貼り、加工、組み立て、塗装の全行程を自社の工場で行うことが質の良い製品を生み出すことにつながっているといえます。

その他新しく生み出すだけでなく、長年使われてきたタンスなどの更生も行なっています。

「家具は長年使えるように作られています。代々使ってこられた方の思い出もそこにあるかもしれません。新しいものを作るだけでなく、古くても良いものを直すことで大切に使い続けてもらえるようにするのも、私たちの大切な役目だと思っています」

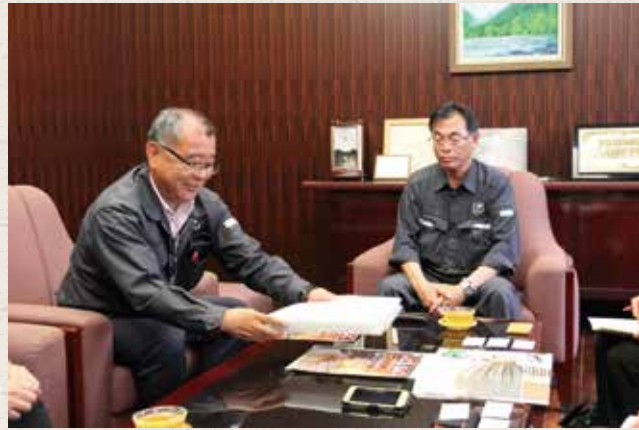
そう答える宮崎社長の前には70～80年前に作られた桐タンスが湯で洗われ、昔の輝きを取り戻していました。

“ホンモノ”だけが残る世界

「最近、良木は減ってきているのですが、木材の需要は増えているような気がします。木目がプリントされた素材が多用されていますが、最近では時を経て美しさを増し、耐久性でも風合いの意味でも本物の木材



MOKKブランドの突板を利用したステッカーと端材を加工したボード



工場を案内してくださった長谷川常務と藤田工場長

を求める人が増えてきたように感じます。平成22年に公共建築物等木材利用促進法が施行され、国が率先して木材利用、ひいては木材全体の需要拡大を目指していることも要因のひとつかもしれません」

木材需要の拡大を視野に、現在、針葉樹とは趣が異なる広葉樹を不燃木材にする技術の確立を目指しているとのこと。

また、端材とはいえ上質の木を処分するのはもったいないと、端材を使って木のステッカーやカッティングボードなどを作り、“MOKK”というブランドを立ち上げました。

「日々、世の中は変わっていきます。数年前は桜の材は縞の出方などがニーズに合わなかったのですが、社屋を建てる際に壁材に利用したのですが、今ではこんな良い材はないと言われます。法令もそうです。地球の環境、グローバルな取引などによって年々作られ更新されていきます。ニーズやコンプライアンスを大切にしつつ、木という自然の恵みを最大限に活かせるよう仕事に取り組んでいきたいと考えています」

時代のニーズ、法令などにより求められる仕事は大きく異なります。その時々で柔軟に対応し、必要なものを生み出していくことが大切だと宮崎社長はいます。そして、その原動力は、社員の皆さんが日々努力と研鑽を積み、無理を可能にしてきたことへの誇りでしょう。

会社概要

安政3年(1856)創業。昭和17年(1942)設立。本社は京都市中京区夷川通堺町西入る絹屋町。木製不燃化粧材の製造・販売と建築内部造作工事を行う。ほかに家具類製造・住宅建築工事なども受注している。



特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都 (京都市)



かつては里山として利用されていたものの、エネルギー革命で薪も炭も必要とされなくなり、荒廃していた山科区御陵や宇治白川の里山で森林整備活動を行うビオトープネットワーク京都。

山科区の「みささぎの森」で、この活動のリーダーをされている奥田智子さんにお話を伺ってきました。

地球は大きなビオトープ

ビオトープと聞くと学校につくられた小さな池、といった限られたイメージがあるかもしれませんが、本来の意味は「生き物の住処」という意味です。つまり、生物が生息するあらゆる場所のことで、森もちろんビオトープだといえます。地球自体が大きなビオトープでもあります。

私たちビオトープネットワーク京都は、平成16年から、この「ビオトープ」を核に、人とビオトープをネットワークで結び、地域のコミュニティづくりや自然を保全・再生する活動を行っています。

具体的な活動は、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策の交付金を受けて、山科区御陵や宇治市白川地区での里山再生・整備を行っているほか、「学校ビオトープ」「屋上ビオトープ」「まちなかビオトープ」など身近な場所で自然を感じてもらう取り組み、また鴨川等の水生生物の調査や小学校の環境学習のお手伝いなどもしています。

人と人とのつながりで 「飽きない」活動を

整備している森には子どもたちを含め、年間のべ千人以上が訪れています。活動は、いろんな人とのつながりでどんどん広がっていき、飽きることがありません。助成金を活用しての人材育成講座にも力を入れていますし、これまでも地域の方が様子を覗いてくれるうち参加してくれるようになったり、親子連れ対象のイベントに参加した保護者の方が活動に参加してくれるようになったり。

一方資金面などは常に課題で、いろいろ試行錯誤をしながらですが、助成金以外ではシイタケやタケノコなどを販売することで一部活動資金にあてたりもしています。



間伐材を使ってみんなの遊び場をつくろう！

人が関わってこそその 「里山」の豊かさを子どもたちに

最近、小学校のSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択された)授業のお手伝いなどもしています。

子どもたちは森や自然の中でとても生き生きと過ごします。初めは「虫が触れない」と言っていた子も、帰る頃には触れるようになっていたり、いつしか大人より虫の種類に詳しくなって名前を覚えてくれたり。

生物多様性が大切だといわれるようになって、生きものや自然に触れ、心から楽しんだ経験があるとならないのでは、その言葉の捉え方は大きく変わってくると思いますね。

日本の「里山」は長く人間が利用してきたからこそ成立した生態系であり、人がかかわってこそ成立したビオトープという面もあります。この自然と人とのつながりを子どもたちにも伝えるべく、これからも活動を続けたいと思います。

団体プロフィール

設立：平成15年9月
活動地：京都市山科区御陵、宇治市宇治白川ほか
会員数：約60名
活動概要：ビオトープづくり、里山保全活動、生きもの調査ほか



企業参加の森林づくり 2018 年春

協会では、地域の森林と府民や企業等をつなぐパイプ役となりながら、寄付金による「森林づくり基金」などを通じて府内各地で多彩な森林づくりを支援しています。

現在府内では、43 団体の企業・大学等が、それぞれ森林利用保全協定を締結いただき、連携を図りながら活動に取り組んでいます（平成 30 年 7 月現在）。

今年春に行われた企業の活動をピックアップしてご紹介します。

（協会に送付いただいた活動報告より抜粋）

4月 6日（金）	三洋化成工業株式会社	和束町
4月 7日（土）	株式会社島津製作所	南丹市
4月14日（土）	京都生活協同組合	亀岡市
4月21日（土）	グンゼ株式会社	綾部市
4月21日（土）	エスベック株式会社	福知山市
4月21日（土）	株式会社村田製作所	亀岡市
4月28日（土）	KDDI 株式会社関西総支社	大山崎町
5月 2日（火）	株式会社島津製作所	南丹市
5月12日（土）	株式会社 SCREENホールディングス	亀岡市
5月12日（土）	ワタキューセイモア株式会社	井手町
5月19日（土）	京セラ株式会社	京田辺市
5月20日（日）	株式会社スリーエス	福知山市
5月25日（金）	オムロン株式会社京都事業所	京都市
5月26日（土）	グンゼ株式会社	綾部市
5月26日（土）	株式会社ドコモ CS 関西	宇治市
5月26日（土）	株式会社村田製作所	亀岡市
6月 3日（日）	モリカワグループ	南丹市
6月23日（土）	株式会社虎屋京都工場	南丹市



グンゼ株式会社



KDDI 株式会社関西総支社



株式会社 SCREENホールディングス



エスベック株式会社



株式会社スリーエス



ワタキューセイモア株式会社



豊かな森を次世代へ

森の出前授業 活動報告

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育に関する出前授業を平成 27 年度から実施しています。今年の春も、たくさん子どもたちが森に親しむお手伝いをさせていただきました。

5月11日 大文字山（京極小学校）

3 年生 27 人が、市民グループ フィールドソサイエティの皆さんの指導で、大文字山で「森の出前授業」を受けました。「法然院森のセンター」でスライドを見ながら森の生きもののお話を聞いたあと、大文字山登山へ。森の木々の特徴や、森に生息する動物について教えてもらいながら登りました。



5月28日 北山自然観察林（北野幼稚園）

年長児 31 人が、京都森林インストラクター会の指導で林道の自然観察や葉っぱのこすり出し等を行いました。こすり出しでは、皆さん熱心にこすって、それぞれ満足そうに作品を見せてくれました。



6月5日 安祥寺山（京都市立安朱小学校）

3 年生 28 人が、京都森林インストラクター会の指導で、安祥寺山で「森の出前授業」を受けました。森の木々の特徴や、森に生息する動物についてお話を聞き、観察しながら登りました。また、山の中で聞こえてくる音を絵で書きました。



この「森の出前授業」は、皆様からお寄せいただいた「緑の募金」を財源として実施しています。当協会の「森の人材バンク」には、森林体験活動の指導ができる人材を登録しており、ご希望の学校にご紹介しています。実施を希望される場合は、事務局（巻末参照）までお問い合わせください。



平成30年7月3日 京都市上京区

公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金 「森林の利用保全に関する協定」調印式

京都で創業した日新電機株式会社が設立した、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金が、環境保全分野の社会貢献活動の一環として京都モデルフォレスト運動に参画することとなり、府庁で調印式が行われました。今後は、南丹市美山町内の森林をフィールドとして活動を進められます。



平成30年6月2日 南丹市日吉町

第9回 Club J-WESTの森 森づくりイベント開催



約 250 人が森林整備体験、自然観察会、木工教室、ツリークライミング、薪割・丸太切り体験等に参加。参加者の皆さんからは、「普段できない森林の整備を体験でき、とてもよい経験となった。森の手入れの重要性が理解できた」といった感想をいただきました。

約 250 人が森林整備体験、自然観察会、木工教室、ツリークライミング、薪割・丸太切り体験等に参加。参加者の皆さんからは、「普段できない森林の整備を体験でき、とてもよい経験となった。森の手入れの重要性が理解できた」といった感想をいただきました。

平成30年5月19日 京都市左京区

キョーラク百年の森基金事業 「子ども森づくり・体験学習会」開催

小学生やその保護者 34 人が参加し、法然院の森を散策したり、森の手入れとして「ひこばえ切り」などを体験しました。京都で創業したキョーラク株式会社から創立 100 周年を記念して当協会あていただいたご寄付により開催しました。



平成30年4月14日 京都市左京区

国際ソロプチミスト京都協賛「古事の森」で 子どもたちが森づくり体験

国際ソロプチミスト京都の支援により開催し、小学生 27 人を含む計 40 人が参加。貴船神社では高井宮司から森と人と水についてのお話を聞き、貴船山国有林内の「古



事の森」では京都大阪森林管理事務所の方から指導いただきながら、森の手入れを体験しました。

CSR 活動公開セミナー 「SDGs 時代の CSR と森林」

日時 9月11日(火曜)午後1時～(開場12時30分～)

場所 聖護院宗務本所2階仏間(京都市左京区聖護院中町15)

2015 年「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」が国連サミットで採択され、今、地球規模での持続可能な社会づくりに向けた行動が求められています。協会では、これからの企業による生物多様性や森林の保全をはじめとした CSR 活動の展開を提案し、行動につなげることを目指しています。前回のセミナーからさらに議論を深めたいと考えています。

※当協会正会員以外の方は特別拝観料 1,000 円をご負担いただきます。

内容

特別拝観 一夜造御学問所 宸殿・書院(重要文化財)

講話 聖護院門跡門主 宮城泰年師(協会理事)の講話

基調講演 「自然資本を活かして、SDGs に貢献し、新しい価値を創る」

講師：足立直樹氏

(株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役、企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB) 理事・事務局長)

事例発表 (株式会社島津製作所、三共精機株式会社)



相合傘
濡れてる方が
惚れている

そんなあなたと
ながーいあつまい。

飾らない銀行
京都銀行

発行:公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> [facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>
2018年夏発行

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。